

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100308
法人名	株式会社EPO
事業所名	グループホームえん ユニット名さくら
所在地	福岡県 北九州市 門司区 田野浦2丁目9-33
自己評価作成日	平成26年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年6月18日	評価結果確定日	平成26年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

門司区の中でも、多機能ホームえんが事業を開始した田野浦地域は中心街から少し離れており、バスの便が少なく、高齢者が買い物や通院などに困っている地域として有名な地域の一つです。多機能ホームえんの開設に当たり、地域の方々に貢献できる施設づくりを目指しています。毎週火曜日は小さな市場を開催し、地域の方と顔なじみの関係づくりを築いているところです。ご利用者にとっても、顔なじみの方が来てくれることで地域との繋がりを感じていただける仕組みとなっています。大好きな門司でいつまでも暮らしていきたい願いを叶える事が私たちの使命であると考えています。認知症になっても、体が動かなくなっても、地域の方々に見守られ、支えあえる関係を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多機能ホームえんは3年目を迎え、まだ真新しい外観は現代的でありながら和を感じさせる色調で、緑豊かな閑静で情緒ある街並みに溶け込んでいる。開設当初より地域に親しみやすい環境づくりに取り組んでおり、地域の方々に回覧板やチラシで呼びかけ、毎週火曜日にエントランスで開催しているマルシェ(市場)では、生鮮食品やパン、惣菜などを販売し、また、ワンコインランチの提供等、様々な取り組みにより地域との親交を深めている。専門的な分野に関しても決して現状のケアに甘んじる事無く、理学療法士や作業療法士、看護師らに直接、事業所内でリハビリや福祉用具の利用、介助の仕方等アドバイスを受け、常に変化する利用者のケアに活かしている。内部研修においても、より具体的な例を挙げ、事業所全体で利用者や家族の思いを感じ取る力を養い、実践につながるよう工夫されている。今後も地域に根ざし利用者や家族の思いを形にする新たな展開が大いに期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本方針の掲示と名札の裏に携帯する事で、周知を図っている。	事業所全体の方針として、「縁」「円」「援」「園」「宴」という5つの「えん」を掲げ、地域密着型に即した基本方針をあえて方言を使用するなどして広く親しまれるよう解りやすく定めている。新人研修のプログラムにも組み込まれケアの心構えとして共有を図っている。また、名札の裏に携帯し、常に日々のケアの中で振り返り、方向性を再確認するとともに実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の加入 公民館行事・市民センターや地域の行事への参加 (盆踊りや運動会やバザーなど) 田野浦小学校の子供たちとの交流	自治会(町内会)に加入している。地域行事や清掃活動に参加し地域に貢献できるよう努めている。小学生との交流も盛んに行われており、事業所内イベントにも参加がある。利用者の楽しみのひとつとなっている毎週火曜日に行われるマルシェ(市場)では、近隣の方と顔馴染みの関係ができるなど積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や地域の方が相談されるようになってきた。また、地域の方で認知症でお困りの場合は、地域包括の活用や受診の勧め、また認知症に対する対応の方法などをお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議議事録参照 毎回、プロジェクターを使い、日頃の活動の様子を伝えている。ご利用者にも参加をお願いしている。	2ヶ月に1回、併設の小規模多機能型事業所と合同で開催される運営推進会議には、利用者・家族・地域包括支援センター職員・町内会会長・自治連合会長・民生委員等の参加がある。事業所の現状や行事予定を報告し、意見や要望に対しては、事業所全体で迅速に対応しケアに取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括から困難事例を引き受け、情報を共有したり、報告を行っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。実践している介護の課題を積極的に開示し連絡を密にとっている。また、行政担当者への開催案内も行われている。市担当者より依頼がありグループホームの説明を近隣小学校で行うなど、協働し取り組むことで地域との関係性にも繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オフJTへの参加や職員会議の場での伝達研修を行っている。	定期的に行われている法人内研修で身体拘束による弊害について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。入居者のペースに合わせて、どうすれば拘束せずにすむか考え、見守りや環境等の改善をしている。入居者個々の状態に合わせて、業務の見直しなどもしている。日中、玄関は開放されている。個別の疾患に応じた医療との密な連携や、管理者、職員による様々な視点からのアプローチが行われ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オフJTへの参加や職員会議の場での伝達研修を行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を職員会議の場において実施する予定。	入居時に、権利擁護に関する制度の資料を基に説明している。実際に成年後見制度を活用している方もおり、月に一度、担当者が面会にいられている。家族も含め地域包括支援センター職員による説明会も実施されている。職員一人一人の知識向上にも努め、必要時には、活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書の内容は、一緒に書面を見ながら全て説明を行い、わからない場所はないか確認を行いながら進めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置と満足度調査のアンケートを年1回実施する。	全家族に届ける広報紙を毎月1回発行しており、事業所内の行事や様子を伝えている。職員は日頃から利用者や家族との会話を大切に、声かけを行っている。家族からも、職員の声かけや挨拶に、好印象をもたれている。意見箱の設置や運営推進会議など家族が意見を表出できる機会を確保しており、実際に、運営推進会議には複数の家族の参加を得ている。家族の来訪時には、嗜好調査等行い利用者の情報収集に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、職員会議、フロア会議の実施。	管理者は、職員との話し合いの場を頻繁に設け、意見を尊重し、必要に応じてフロア会議、職員会議や管理者会議などで話し合い、運営やケアの内容に反映させるなど、職員のモチベーションアップにつながるよう取り組んでいる。法人代表者との食事会などもあり、活発な意見交換がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則をいつでも見える場所に置くようにし、職員はいつでも見る事ができる。人事考課制度を導入しており、職員の努力や実績を評価している。又、毎月代表は勤務表を確認し、管理者からの聞き取りも行う事で、職員の勤務状況や努力を把握している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワークを通しての募集・採用を中心としている。ホームページなどを利用しての求人も行っているが、60歳以上の職員も複数名働いており、年齢や性別によって採用対象から排除するような事は行っていない。働きながら学校に行く事や、資格取得のための休日の保障など配慮している。	人柄や向上心を重視し、性別や年齢等に関する制限はない。責任のある介護、質の高いケアを実現させるため、外部研修にも勤務時間内に参加できるよう配慮している。本人の意向を重視しながら職場内で十分に能力を活かせる労働環境づくりに努めている。働きやすさや自主性を重んじ、風通しの良い環境作りに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育については、「接遇係り」というものを作り、管理者もメンバーに入って、研修や日々の活動の中で人権教育を行っている。	内部研修では具体的な事例を挙げ人権感覚の育成に努めている。外部研修にも参加して、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。排泄や入浴時など、羞恥心に対するケアが必要な部分は、同性介護を行い、入居者の人権に配慮している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議の中で研修時間を設けている。オフJTへの参加も随時行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会への参加を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	退院前カンファ等を通して、本人・家族の願いや思いについて、当事者だけでなく病棟などからの情報も参考に安心できる関係づくりをしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付の段階から、急ぐケースかゆっくり時間をかける必要があるかなど、ご家族やご本人・相談者と連絡調整し、体験や見学などをして頂くようお願いしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	退院前から訪問や面談を行い、車椅子やベッドなどの導入や住宅改修の必要性などを把握し、退院と同時に最低限必要なサービスが導入できるように準備している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動などできることを職員とともに行っていただいたり、ぬか床づけの漬物作りや庭の手入れも一緒に行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診は家族の役割と位置づけ、家族が同席して頂くか、家族が通院を行う事を基本にしている。家族の介護力に合わせ、支援の方法を変えている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の行事に参加する事で、馴染みの方々と顔をあわせる機会ができるようになってきたので、運動会や学校行事など参加し、馴染みの方々と触れ合える機会を作っている。	センター方式の一部を活用し、利用者や家族からの情報の聞き取りを基に、利用者一人ひとりに対するこれまでの生活環境や人間関係を把握している。個別性を重視し、利用者の地元の行事などにも参加できるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席やソファーに座れる時は好きな場所を選んで頂き、馴染みの方と談話できるようになっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の利用者の訪問や、ご家族との連絡調整を継続して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント 本人が表現する事が難しい事があるので、ご家族にも聞き取りを行うようにしている。	利用者がよりよく暮らすための課題を探る為、家族や全職員の意見、気づきなどの情報を収集し、利用者の視点に立って考え計画に活かすようにしている。定期的にセンター方式の一部を活用し検討している。細やかなアセスメントの充実により、個別の機能訓練や余暇活動など日々のケアに活かしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント 本人が表現する事が難しい事があるので、ご家族にも聞き取りを行うようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント 本人が表現する事が難しい事があるので、ご家族にも聞き取りを行うようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアのためのフロア会議を行ったり、連絡ノートや引継ぎのための「申し送り帳」を使い、サービスの内容を随時検討している。また、現場職員も担当利用者を持ち、モニタリングを行っている。	介護計画は、家族や入居者の意向をもとに、主治医や職員の意見を取り入れながら、アセスメント、モニタリングを定期的に行い計画している。連絡ノートや申し送り帳の内容を随時、職員間で検討している。毎月のフロア会議で情報を共有している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を時系列に記入し、引き継ぎ事項申し送りなどの記録、日課表作成などで課題を共有するようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎週一度マルシェえんを開催しその時に望むものを自分で選んでいただいたり、希望に沿って個別的に外出の機会を設けたりしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	マルシェえんでお買い物をする事で、食べたいものを選択し、季節の果物や魚などを生活の中で楽しみにつなげる事ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の体制：西明内科消化器科医院、鶴木医院 地域の病院：長田医院との連携もとっている。 緊急時の受け入れ：新小文字病院	契約時にかかりつけ医について確認し、利用者及び家族の希望や状況に合わせて、適切な医療を受けられるように支援している。他科受診の必要がある場合、家族が対応できない時はスタッフで支援するなど、連携に努めている。協力医療機関医師や看護師による訪問診療の体制も確立しており、利用者の健康管理に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医とスムーズに連携が図れるように訪問看護ステーションと連携対応を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	掖済会病院・メディカル病院・市立門司病院・蒲生病院の地域医療連携室との連携を主にやっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメントの時に、ご家族から緊急時の対応について聞き取りを行っている。	重度化・終末期に向けた方針について、契約時より説明を行い理解を得るようにしている。段階に応じて家族と話し合いを行い、協力医療機関医師や看護師と連携を図りながら看取り体制を整えている。現在、対象となる利用者はいないが、終末期ケアの対応に向けて、法人全体で研修を行い、ターミナルケアについての理解や意識を深めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の訓練を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、風水害など、それぞれの災害対策のマニュアルを作成している。	併設する小規模多機能型事業所と合同で、年2回避難訓練を実施している。事業所の活動案内を地域に配布する際に、訓練についても案内を行っている。非常災害時対応マニュアルや風水害対応マニュアルを作成している。	災害時における必要備蓄品、あらゆる災害を想定したマニュアル等、避難訓練や運営推進会議等を通して、より具体的な地域防災体制の確立や、全職員への周知を、再検討することで更に明確になることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導や入浴のお誘いなどは、「ささやき」を重視している。浴室には暖簾を掛けるなど、プライバシーへの配慮をしている。	利用者一人ひとりのこれまでのライフスタイルや価値観を尊重し、日々の業務優先ではなく、その時々希望や状況に応じた柔軟な対応に努めている。排泄や入浴、衣服の脱着の際には、特にプライバシーに配慮し、細やかな声掛けなどで、利用者本位のケアになるよう対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴者には筆談を行って自己決定できるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間や食事の時間を本人の食べたい時間に合わせたりと、小食の方には5回食や6回食にして対応するなど、本人のペースに沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	手洗いの前に大きな鏡、櫛、スプレーを準備している。洋服も自分で選べる方には選んで頂いて着替えを介助している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事をしている。準備や片付けも一緒に行っている。食物の軟らかさや大きさ・量の多少など個別に対応している。	給食会議を毎月1回開催し、改善を重ねている。野菜の皮むきや片付けなど、利用者が可能な限り行っている。屋外で竹を組み流しめんをしたり、慣れ親しんだ地域の料理店での食事会など、季節に応じ、食を楽しむことができる機会がもてるよう支援に努めている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて栄養士が献立を作成し、その日に調理して提供している。水分補給の時間を何回も作り、1日の水分摂取量を記録。不足しがちな方は好まれるものを提供し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの支援:毎食後口腔ケアへの誘導と磨き残しがないよう介助している。また、歯科往診を受けている方については衛生士の指導を受け適切なケアを取り入れ行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンの把握、トイレ誘導を行っている。パットの活用や尿器の活用などできるだけ自立した排泄ができるよう支援している。	個々の排泄パターンに合わせ、プライバシーに配慮しながら誘導し、失禁の減少に努め利用者の尊厳を大切に支援している。排泄用品の検討や状況に応じた選択等、細やかな支援が行われている。また、	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録と服薬調整の支援 個人に応じた食事形態で提供したり、水分摂取の強化、体幹を使った運動などの支援を行っている。また、排便の記録を残し、服薬調整を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否がある方は、時間をずらし入浴したり、炭酸浴や温泉の素をいれるなどして楽しく入浴できるよう支援している。時間帯も午前、午後など好きな時間を選択して頂いている。	毎日入浴準備を行い、希望や状況、体調等を考慮し、柔軟に支援を行っている。菖蒲湯や柚子湯等、季節感を楽しむ機会を持っている。アセスメント様式として、入浴や着替えについての希望や悩み等についての情報収集が行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある人は昼寝を支援している。毛布や枕などはそれぞれの希望を聞き、持ち込みされた物を使用されている方もいる。湯たんぽや電気毛布などを希望される方は私物を使用して頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は管理者・看護師が行っている。服薬マニュアルを作成し、その通りに支援する事で服薬ミスがないようにしている。また、症状の観察も行い、変化があればご家族や主治医に報告している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い・食器拭き・洗濯物干し・洗濯物たたみ・菜園の手入れ等々、細かい仕事を他にも多数作り、それぞれのご利用者に応じた役割を持って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣、お花見、買い物、ドライブ、散歩、季節を感じたり地域行事に参加する為の外出など、その都度行っている。	行事毎に各担当者がおり、地域の行事やバスハイク、動物園ツアーなど外出支援に力を入れている。個々のこれまでの外出状況や理美容、今後行きたい場所等について情報を収集し可能な限り個別的な外出支援も行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少ない金額を持って生活する人、毎回買い物に行く事を考えて財布持参で来る人などさまざまであるが、認知症の為、管理が困難な方は職員が支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、えんの電話を使用して家族などにかけて頂けるよう支援している。手紙は希望があれば書いて頂き、職員が投函する事も可能である。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の動線上には物を置かないよう整理したり、室温調整を随時行っている。リビングには一部仕切りを作り落ち着いてテレビ視聴ができるよう工夫している。	多機能ホームえんの1階部分は併設する小規模多機能型事業所で、当事業所は2階部分に位置する。リビングには、小上がりの和室や格子の仕切りなど利用者のプライバシーに配慮しながらリビングで居心地良く過ごしたくなるような工夫がなされている。また、庭の緑や季節の花、絵画など家族にも好評で、事業所のおもてなしの心が伝わってくる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置をずらしたり、広げたりして、その時々を使い方を工夫するようにしている。地域交流スペースは本を読んだり、TVを観たりできるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、時計やカレンダー、家族の写真や絵を飾るなど、居心地良く過ごせるよう対応している。	各部屋にクローゼットやベッドが備え付けられ、それぞれ使い慣れたクッションや調度品や写真、仏壇等を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている為、移動はできるだけ自分でして頂けるように配慮している。介護者が安全見守りしやすいように見渡す事ができる環境にしている。		